

今年度も3ヶ月を残すのみとなり、お陰様でここまでの研修は順調に実施することが出来ました。さて、巻頭ページでは今年度の新規コース「木質バイオマス利用促進研修」を紹介いたします。

### 木質バイオマス利用促進研修について

森林技術総合研修所 教務指導官 金口 健司

「木質バイオマス利用促進研修」は、間伐材、林地残材、製材工場等で発生する端材など、木質バイオマス利用を促進するため、木質バイオマス利用の現状と課題、最新の研究開発や取組の状況、今後の利用拡大に向けての課題等木質バイオマスの有効利用に関する知識の習得を目的に、都道府県の担当職員39名の参加のもと、10月11日(火)から4日間(うち現地見学1日)実施されました。

本研修では、岐阜県立森林文化アカデミーの熊崎学長から「木質バイオマス利用の現状と課題」、NPO法人バイオマス産業ネットワークの泊理事長から「木質バイオマス利用に必要な国産材の利用拡大」について、木質バイオマスの利用の必要性、現在の取組状況、今後の利用促進に当たっての課題などについて講義して頂きました。また、岩手・木質バイオマス研究会の金沢会長、静岡県環境森林部森林保全室の秋野主査には、地域や森林組合の実際の取組と課題等を紹介して頂きました。いずれの講義も休憩時間まで質問が及ぶなど受講生の関心も非常に高いものでした。

現地見学で訪れた小菅村(山梨県)は、多摩川源流部に位置し東京都の水源にもなっている地域で、森林整備により搬出された木材の利用や村内から出る廃棄物(ゴミ)処理の軽減の一環として、間伐等で搬出された木材をおが粉に加工し、各家庭から出される生ゴミと混合して堆肥を生産し村内の農家等で消費するなど、木質資源の有効利用と地域内循環に努められている自治体です。案内をしていただいた源流振興課の青柳課長には、住民の意識、経費の節減、施設の稼働状況、費用対効果など広範にわたる説明をして頂き、「バイオマス利用という話題先行になりがちの中で実際に取組むことの難しさ、軌道に乗せるための担当職員の努力を痛感した」との印象を数多くの研修生が受けたようです。

当研修は今年度新規に実施した研修であり、木質バイオマスの利用促進が注目を浴びていることから研修生の関心も高く、また、NHKが12月以降にバイオマス利用に関する番組を企画しているとのことから制作担当者が講義を聴講するなど、マスコミの関心の高さの一端も伺い知ることができました。

木質バイオマス利用については、既に取り組を始めている自治体もあればこれから取組むことを考えている自治体など対応は様々でしたが、「木質バイオマス利用の状況が良く解り今後の取組の参考としたい」とのご意見を数多く頂きましたので、来年度もより効果の高い研修となるよう努める考えです。



障害物質除去装置



混合堆肥化装置の説明

# 高尾の森へのメッセージ

(受講生からの便り)

## 「特用林産研修」を受講して

宮崎県 北諸県農林振興局 上野 清文

秋深まる東京都八王子市にある林野庁森林技術総合研修所において、去る10月17日から5日間の日程で「特用林産研修」を受講しましたので、その感想について少し述べたいと思います。

研修は、台風20号の影響による生憎の雨模様でスタートしましたが、初日から2日間はかなり冷え込んだこともあり、必要最小限の衣類しか用意していかなかったことを後悔しながら、夕食後、早めに布団に潜り込んだことを記憶しています。



八ヶ岳薬用植物園にて



身延竹炭企業組合にて

研修には、都道府県の特用林産担当者26名が参加されており、講義の終了後には、熱心な質疑応答が行われ、この研修を通じて少しでも知識を習得しようとする意気込みが感じられました。

今回、私は、普段なかなか触れることのない特用林産物についての知識や特用林産物による地域振興についての情報を得ようとこの研修に参加した訳ですが、期待どおり大変有意義な研修になりました。

特に、現地見学・講義で訪れた山梨県の森林総合研究所八ヶ岳薬用植物園で多種の薬用植物を間近で見学できたことと、身延竹炭企業組合の国際交流を含めたシニアパワー全開の取り組みが大変印象に残るとともに、今後の普及活動に大変参考になる研修となりました。

近年、山村地域を取り巻く諸情勢は大変厳しいものがありますが、今回の研修で学んだことを活かし、今後、林業所得の増大、山村地域の振興・就労機会の拡大に向けて積極的に取り組んでいきたいと思えます。

最後に、この研修を通じて大変お世話になりました講師の先生をはじめ森林技術総合研修所の皆様に感謝申し上げまして、終わりにしたいと思います。

## 「森林技術研修」を受講して

近畿中国森林管理局 山口森林管理事務所 竹内 和歌子

平成17年度森林技術研修は平成17年9月20日から10月7日まで3週間にわたり行われました。

今回、この研修を受講したのはⅡ種採用者のうち森林官や係長など国有林の現場業務に就いている12名です。研修の名前が「森林技術」とありますが、内容は非常に幅広く、森林整備業務や保安林制度など実務的な内容からJST、コーチングなど人を育てる技術まで多岐に渡ります。

研修が終わった直後は、3週間で一気にいろんなことを頭に詰め込んだ感じで、消化しきれない状態でした。しかし、職場に戻り通常業務をする中で、ぼつぼつと研修での知識がつながり、役に立ち始めていると感じます。

「今の自分の役職より2つ上の立場でものごとを見る、そして判断することを身に付けて欲しい。」というアドバイスを講義の中でいただきました。就職して6年半、係員や森林官、係長と自分が経験した立場からしかものごとを見ていなかった私にとって、この考え方はとても新鮮である一方難しいことでもあります。これからは自分の係のことだけでなく、所全体のことを考え判断し、行動できる人間になりたいと思えます。



高尾山にて



林業機械化センターにて

平成17年9月14日(水)に、森林総合利用研修の研修生及び専攻科研修生を対象に、全国森林レクリエーション協会の三浦雄一郎会長を講師としてお招きし、特別講義を行いましたのでその概要を紹介します。

## 三浦雄一郎会長 特別講義「我が夢の限界に挑む」

森林技術総合研修所 教務指導官 加藤 義明

前半は、スキーと出会った小学校5年生当時の話、中学生時代に穂高、白馬三山、五竜岳を縦走した話、初めてスキー大会で優勝した中学3年生当時の話、八甲田山でのクロスカントリーの思い出、北海道大学を卒業後薬理学教室の教官助手の頃、ウィリアム・クラーク博士の「Boys be ambitious」に潜む魂が、「もう一度スキーを」という気持ちと勇気を与えてくれた話、1964年にイタリアキロメートルランセ・スピードスキー大会に日本人として初めて出場し、時速172kmの世界新記録を出し、1966年には、パラシュートブレーキを使い富士山直滑降に挑んだ話、また、エベレストからの直滑降時にパラシュートが開かずツルツルの氷の斜面を滑落したり、南極ではクレバスに落ち込むなど「九死に一生」の経験を幾度もした話などをして頂きました。そして、後半は次の話をして頂きました。



### もう一度やってみようと思い決めた

世界7大陸最高峰のスキー直滑降を53歳の時に完全達成し、その後60歳を区切りとして一旦現役を引退し、海外旅行やスキーをやって余生を楽しもうと考えました。この頃から食べ放題、飲み放題の動かない生活が続き、あらゆる成人病の категорияに引っかかり医者から入院を勧められました。しかし、この時、「入院して死ぬよりは山へ行って死んだ方がましだ。」と思いました。

家庭では、父親は99歳になっても元気にモンブランを滑り、次男は長野とノルウェーのオリンピックに出て、ワールドカップ、世界選手権と頑張っている。この間に挟まれ、自分だけが取り残されている感じがした。何かをやってみたいと思いながら、どこかで諦めていました。夢の中に幾つか引っかかっているものがありました。

ある時そんな生活を変えるきっかけが訪れました。65歳のときNHK・BS「世界我が心の旅」という番組の収録で、エベレストのベースキャンプへ行く機会がそれです。意気揚々と登山始めたものの、3,000mで高山病、4,000mでふらふら、5,000mのベースキャンプに着いたときは、これ以上は無理だと思い、もうこんな世界は無理かと一旦諦めました。しかしもう一度できるかできないか、やってみようという気持ちが湧いてきました。

### 街の中でトレーニングを

でもどうやっていいのかわからない。家のすぐ裏手の藻岩山(標高531m)でトレーニングしようと思い、リュックに20kgのものを詰めて緩い登山道を登ることにしたのです。しかし、たかだか500mの山が登れなかったのです。またその頃は仕事・雑用で忙しく家に居ることも少なくスケジュールを立てるトレーニングも出来ませんでした。そこで、トレーニング方法を変えることにしました。外出する時は3kgの登山靴を履き、足首に2kgのサポーターを付け(写真右)、30kgのリュックを背負うようしました。これで東京にいても、ほぼヒマラヤの5,000mぐらいの状態と同じようになる。これぐらい出来ればエベレストへ行けるようになると考え、それに向かってスタートしました。街を歩いていてもヒマラヤ気分でトレーニングができるのです。



両足にはそれぞれ2kgのサポーターと3kgの登山靴が！！

## エベレスト登頂最高齢記録を樹立

エベレストに登った若い登山家が、「エベレストに登るような人は、富士山の5合目から頂上まで3時間で登る。」って言うのです。そこで登ってみたら、3時間ちょっとで山頂に到達し、頂上の噴火口を一回りしてゴミを拾いながら2時間で帰ってきました。あの500mちょっとの蘂岩山に登れなかったのが、わずか半年で富士山に登れるようになったのです。これほど違うものかと驚きました。ただもっと効果を出そうとして、膝や足を傷めたり風邪を長引かせたりしました。当たり前のことですが、トレーニングは少しずつやるものですね。

こうしたトレーニングを重ねながら世界のいろいろな高山を登り、2003年5月、次男の豪太と共に、70歳7ヶ月にしてエベレスト(8,848m)登頂を成し遂げるまでになりました。

## エベレスト山頂での「聖火引き継ぎ」に立ち会いたい

2008年8月には、北京オリンピックが開催されます。この時、ギリシャのアテネを出発した聖火ランナーはシルクロードを経て、ネパール側からエベレストの頂上を目指します。その山頂で中国隊に聖火が引き渡され、万里の長城を経て北京に向かうことになっています。できたら、このエベレスト山頂での聖火引き継ぎに立ち会いたいと思っています。

このため、現在、2008年8月に中国側のチョモランマから登攀するプランを進めています。これが成功すれば、自らが立てた世界最高齢70歳7ヶ月を塗り替える75歳9ヶ月の記録となるはずです。

人は、それぞれの夢を持っています。捨てた夢、諦めた夢があると思います。是非みなさんも夢を諦めないで、時には休んだり、引き返しなが、いつの日か夢を達成されるよう頑張っていたきたいと思ひます。

本日は、ご静聴大変ありがとうございました。



# 研修紹介

## 持続可能な森林経営の実践活動促進研修

森林技術総合研修所 教務指導官 宮武 文典

この研修は、持続可能な森林経営の推進に資するため、基準・指標に基づく森林資源等のモニタリングの実施及び参加型手法に基づいた国家的森林プログラムの策定に係る知識及び技術を習得してもらうことを目的に、持続可能な森林経営の概論、持続可能な森林経営の基準・指標、森林資源モニタリング手法、国家森林計画の立案手法などについて行っています。

今年度の研修生は、中国、トルコ、エチオピアなど14カ国から14名の各国政府の林業担当者で、平成17年8月29日から11月25日までの3カ月間、受講しました。

また、研修では、研修所での講義のほか、北海道、広島、京都、屋久島など日本各地での現地講義や見学なども実施しています。



日光国立公園戦場ヶ原にて



当研修所玄関にて記念撮影

# 研 修 紹 介

## 高性能林業機械研修[コスト専門]

森林技術総合研修所 林業機械化センター 機械化指導官 加利屋 義広

### 当研修の目的

当研修は、高性能林業機械作業に係るコストを主体とした研修で、今年度から新たに実施しました。

高性能林業機械を使用した効率的な作業を推進するため、実習を主体とし実習中に発生するコストの構造や原価の仕組みを算出し、伐出システムのための生産予測プログラム及びコスト分析事例等、コストについて必要な知識を習得させることを目的とし、平成17年9月26日～9月30日まで、5日間の日程で実施しました。募集人員10名に対し25名の参加があり、各都道府県のコストに対する関心の高さが伺えました。

### 具体的研修工程

コストは作業に使用する機械の選定や、作業条件、人員配置や作業の習熟度等、様々な条件で変わりやすく、算出については固定費や変動費、減価償却費など難しい計算式を理解する必要があります。

そこでまず、実習でスイングヤードによる集材を実施しながら、ビデオ撮影にて作業状況を撮影して持ち帰り、座学でビデオ解析を行い生産性を算出し、コストに結びつく作業内容の検討を行いました。実習の集計結果で得た生産性は3.7m<sup>3</sup>/時で、研修生による検討では「伐木時の伐倒方向の適正化による、横取り作業の低減化」が必要という結果となりました。その後、固定費、変動費等を座学によって理解し、手計算によるコスト算出を行いました。また、コスト算定プログラムを使用し、手計算との照合に研修生から歓声やため息等が聞かれました。

最終日は、森林総合研究所の講師と共にコストについての意見交換を行い研修を終了しました。

### 研修生からの評価

研修後のアンケートでは、「大変役立つ研修だった」との回答を25名中20名(80%)から頂き、研修内容を満足頂けた方が多くなっています。

実際にスイングヤードを使用して実習した生産性の把握法は「自県の研修に役立てたい」、「実際の工程調査に触れることができた」等、実際に使える手法として高い評価を頂いています。また、コスト要因の解説及び計算方法を中心としたコスト算定法は、「原点に戻っての説明で大変分かり易かった」、「実際に手計算を行ったことでより理解できた」等高い評価を頂きました。

### 来年度の当研修は

当研修は今年度から始めたものですが、沢山の反省や改善点もあり、来年度は更に研修内容を精査し、より充実した研修とするため外部講師と共に十分な打ち合わせを行っていく予定です。



集材作業をビデオカメラで撮影



現地実習から生産性を算出し、コスト解析データをPCで求める作業



意見交換

## 当研修所と北京林業管理幹部学院が姉妹提携で合意

日本の森林・林業行政や造林事業に関する研修のため、独立行政法人国際協力機構（JICA）の研修員受入事業により、中華人民共和国政府職員一行7名が来日し、研修の一環として去る7月29日当研修所に来所、人材育成についての説明を受けた。一行は、同国国家林業局関係の職員で、団長は同局北京林業管理幹部学院（森林・林業関係の人材育成機関）の劉副院長。

昨年9月、日中森林・林業担当部局の長による定期対話を行うことで両国の意見が一致したのを機に第1回の定期対話が今年7月北京で開催された。この時当研修所と北京林業管理幹部学院の姉妹提携について両国とも前向きに検討することで意見が一致し、これを受けこの度来所した劉副院長との間で姉妹提携の事務を進めることで合意した。

現在、提携内容を両機関で検討しており、来年には職員・研修生の交流が始まる予定である。

中国では、天然林や野生動植物の保護、水土流出防止・整備、砂漠化防止の強化を目指した6大林業プロジェクト（計画期間10～50年）が進行中で、これらのプロジェクトを遂行するにも人材育成が急務となっている。北京林業幹部学院は、林業部門の幹部への研修を行っており、2004年からJICAが協力している。



握手を交わす上河所長(左)と劉副院長

## 人事異動

### 転入（平成17年8月1日付）

- 教務指導官 亀田 哲郎（九州森林管理局 森林整備課長）

### 内部移動（平成17年8月1日付）

- 経営研修課付 竹中 二葉（教務指導官）
- 林業機械化センター 機械化指導官 泉田 信幸（林業機械化センター 機械化研修係）

### 転出（平成17年10月1日付）

- 関東森林管理局 福島森林管理署 玉ノ井森林事務所 森林官 縣 佐知子（林業機械化センター 機械化研修係）

### 新規採用（平成17年12月1日付）

- 林業機械化センター 機械化研修係 城尾 あすか

「お知らせ」文章の変更

●当所のホームページをリニューアルしました。一度見てください！当研修の概要や研修計画などの情報があります。

●機械化センターの住所が変更 → 群馬県沼田市利根町根利1445（住所以外は変更無し）